

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

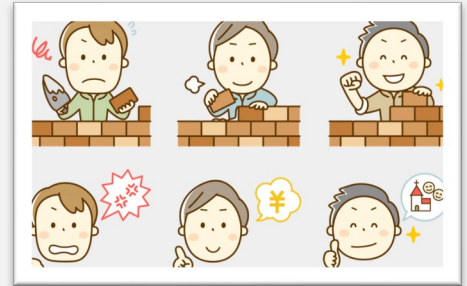
VOL.114 (2025.9.26)

令和7年度スローガン
新たなるステージへの挑戦
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

「3人のレンガ職人」皆さんは聞いたことがあるでしょうか？ ネットによるとイソップ物語に出てくる寓話だとか、いや中学校の校長先生による創作だとかいろいろな説があるようですが内容は以下の通りです。

世界中をまわっている旅人が、中世のとあるヨーロッパの町外れの一本道を歩いていると、3人の男が道の脇でレンガを積んでいました。旅人はその男たちのそばに立ち止まって、「ここでいったい何をしているのですか？」と尋ねました。一人目の職人は「そんなこと見ればわかるだろう。親方の命令で“レンガ”を積んでいるんだ。暑くて大変で本当についてないよ」と答えました。二人目の職人は、「レンガを積んで“壁”を作っているんだ。この仕事は大変だけど、金（カネ）が良いから家族を養っていけるんだよ」と答えました。三人目の職人は活き活きと楽しそうにレンガを積みながら「ああ俺たちは歴史に残る偉大な大聖堂を造っているんだ！素晴らしく名誉なことだろう！」



この物語は仕事をする意味というものを考えさせてくれます。一人目はいいやいやながら不平を言って仕事を単なる作業と捉えており、二人目は家族を養うため高い報酬を目当てに仕事をしています。三人目はその仕事の目的や意味を理解しながら使命感を持って仕事をしています。私たちが現場で同じような質問をされたらどう答えるでしょう？「地域の皆さんが安心安全に暮らすことができるように道路（河川）を整備しています」「利用する皆さんに喜んで頂けるような建物をつくっているのです」「鉄道の安全安定輸送のために作業をしています」「新しいお家で暮らす人たちが快適に暮らせるように仕事をしています」そんな風に答えられたらと思います。

ところでネット上で四人目のレンガ職人がいたらという記事を見つけました。それは「レンガを積むこと自体が楽しくて仕方がない人」とありました。つまり目的よりもその作業が楽しくてしょうがないと思っているレンガ職人です。仕事そのものが楽しく、そのために工夫することも苦にならず、あっという間に時間が立っている状態です。社員全員が三人目と四人目であるような会社であれば素晴らしいと思いました。皆さんはどう思われますか……。これからの時代の「豊かさ・幸せ」の感じ方なのだともありました。

成瀬ダム祭 2025



8月24日(日)第二回目の開催となる成瀬ダム祭が開催されました。3千人を超える来場者で会場となった鈴木建設工業の敷地は大いににぎわってありました。知事・市町村長・国会議員と多くの来賓もお見えでした。ダム広場が完成後は赤滝祭りとして開催の計画との事です。



東北中央自動車道フォーラム

9/2 湯沢グラントホテルにて13回目となるフォーラムが開催されました。講演では能登半島地震の被災状況が説明され、道路復旧が進まないことが復興の遅れに直結しているとの事でした。

横堀道路が今年中に開通することが国交省から発表され、新庄金山道路・金山道路・真室川雄勝道路の開通見通しの発表が待たれるところです。



5階建木造アパート

9/15 日本住宅が盛岡市内に完成した木造5階



建てのアパートを見学してきました。2×4工法で建てられており、エレベーターシャフトは鉄骨で製作されておりました。内部のクオリティも高く技術力の高さに驚きました。

